

//// //// 小田急グループ カーボンニュートラル 2050 //// ////



—— 環境ビジョン ——

小田急グループは美しい地球環境と優しい社会を未来の世代に引き継ぐことを使命とし、  
事業活動を通じて CO<sub>2</sub> 排出削減や資源循環、  
自然資源の保全・活用などの環境課題に積極的に取り組みます。

—— 環境長期目標 ——

2050年 CO<sub>2</sub> 排出量実質「0」をめざします  
その達成に向け  
2030年 CO<sub>2</sub> 排出量△46%（2013年比）をめざします

※バス・タクシー事業は、EV、FCVの普及や充電スタンド、水素ステーションの整備と連動するため2040年△50%（2013年比）をめざします

環境戦略

UPDATE 1

脱炭素社会の実現

UPDATE 2

資源循環社会の実現

UPDATE 3

自然保全と活用

詳しくは

小田急グループのカーボンニュートラルに向けた取り組みは WEB ページで詳しくご紹介しています。



与える  
駅へ。

街に、  
人に。

一層の温もりを



参宮橋駅には「多摩産材」が  
使用されています。

代々木の柱に佇む明治神宮への最寄駅・参宮橋駅。  
緑あふれる環境に溶け込む、温かみあふれる駅を目指して。  
駅舎には「東京の木多摩産材」が用いられています。

参宮橋駅の改良工事は、東京都の  
「にぎわい施設で目立つ多摩産材推進事業」による  
支援により、実現しています。

地域に溶け込み、  
人に親しまれる駅を目指して。

『木と緑に溶け込む「杜」の玄関口』というデザインコンセプトのもと改良工事が進められ、2020年11月に完了した小田急線・参宮橋駅。明治神宮への玄関口として、大きな街路樹が立ち並ぶ周辺環境とも融合し、地域や利用者の方々にも親しまれる駅となるようお願いを込め、建てられました。この木の温かみに包まれた空間には「東京の木 多摩産材」を使用。駅名サイン表示板やトイレのピクトサインなどにも積極的に用いています。



//// 木の温かみ漂う「神社建築」をモチーフとしたデザイン //



「垂木」「向拝柱」をイメージしたホーム



「木組み」をイメージした天井の改札口

今回の改良工事では、いっそう便利で快適にご利用いただけるよう「駅前空間の拡幅」「トイレのリニューアル」「跨線橋の改修」も実施しています。

参宮橋駅の改良工事は  
「にぎわい施設で目立つ多摩産材推進事業\*」の  
支援により実現しました。

にぎわい施設で目立つ  
多摩産材推進事業

東京都内に所在し、終日多くの人が集まり、誰でも利用できる民間事業者が運営する施設（にぎわい施設）における、内装・外装の木質化や什器の整備等を支援する東京都の事業です。

※東京都と契約を結んで、(公財)東京都農林水産振興財団が運営しています



//// 「東京の木 多摩産材」利用でひろがるメリット //

CO<sub>2</sub>の削減へ

「東京の木 多摩産材」を東京で使えば、遠方から輸送する輸入材の利用に比べ、輸送時のCO<sub>2</sub>発生量を圧倒的に抑えることができます。また、森林の「伐採・利用・植栽・保育」といった循環継続につながり都市部における環境保全につながります。

花粉症の軽減へ

日本人の国民病ともいわれている、花粉症。多摩産材となるスギ・ヒノキを伐採し、“花粉の少ない品種”に植え替えていくことで、花粉症の軽減にもつながります。

地場産業の活性化へ

多摩産材に対する需要が増加し、多く利用されれば、多摩地区の林業に関わる産業、そして地域経済における活性化にもつなげることができます。

